

学園点描

インフルエンザで休む児童生徒が増えてきました。学校では、喚起や手洗いの励行を呼び掛けています。

《H学園》

NO.16

R7. 11. 19

担当：校長

11月4日（火）にM上地区自由研究発表会が地区教育センターで開催され、6年のK・Yさんと4年のK・Oさんが発表しました。結果、K・Oさんの『検証！テレビリモコンの電波はどこまで通るのか！』が最優秀賞を受賞しました。

11月5日～7日にかけて8年生が東京に修学旅行に行きました。大正大学や東京グローバルゲートウェイでは、通りすがりの方々にパンフレットを配ったり、英語で語りかけたりしました。地方から来た中学生が勇気を出して活動をしている姿に感心した方もいたことでしょう。

ことばよりもやる気を支える環境

「すみませーん、お花を飾らせてください」と言って、夕方遅く学校にいらっしゃってくださる女性があります。お名前は柿崎さん。かつて、H学区の小中学校で調理員をしたことが縁で、お仕事を退かれた今も、玄関ホールに季節の花を飾りに来てくださいます。

「遅く来て誠に申し訳ありません」そう言いながら、胸には新聞紙に包まれたたくさんの花を抱え、外気が入り冷えてきた玄関ホールで、黙々と美しい花を飾る作業に入ります。



気づく人は多くないかもしれませんが、季節ごとに変わる花が、いつも子どもたちや来校者を静かに迎えてくれます。「学校の何かの役に立てばと」無償でお花を飾ってくれる地域の女性。学校はこうしたあたたかな支えの上に成り立っているのだと、改めて胸が熱くなります。

秋の読書週間に合わせて『やる気のスイッチ！SWITCH OF SPRIT』（山崎拓己 著）という本を読んでいた。

この本には、「やる気は自分の気持ちだけで生まれるものではなく、まわりの環境にも大きく影響される」と書いていました。

たとえば、まわりの人が笑顔で声をかけてくれたり、机の上がきれいに片づいていたり、明るい音楽が流れていたりすると、不思議と「よし、やってみよう！」という気持ちがわいてきます。反対に、暗い気持ちの人が多い場所や、散らかった場所にいると、なかなかやる気が出ません。

そうした環境があるだけで、人は自然と前向きな気持ちになり、行動する力が湧いてきます。

やる気を出そうと無理に自分を奮い立たせるよりも、まず「やる気生まれる環境」を整えることが大切なのだという話です。

学校という環境もまた、子どもたち一人ひとりの「やる気スイッチ」を押せる場所でありたいと感じます。



「飾らせていただいてありがとうございました」と、柿崎さんは30分ほど肌寒い場所での作業を終え、お帰りになりました。

見ると、玄関付近にはさまざまな表情の秋の花が並びます。この小さな花でさえ置く場所や見る角度を少し変えただけで、その華やかさが一段と鮮やかになるんですね。

花が太陽や水、土といった環境によって元気に育つように、子どもたちのやる気や笑顔も、まわりの環境によって大きく変わります。テスト勉強しているときにお母さんがおやつを用意してくれるのは、「がんばれ」という気持ちをそっと支える環境づくりの一つかもしれません。「がんばれ」と言葉で励ますことも大切ですが、まずは子どもが自然と前を向けるような環境を整えてあげること——それが何よりの応援になるのでしょう。

ある日の1時間目、玄関ホールを歩いていると、新しく生けられた花の前で1年生の2名の児童が、この生け花を選んで一生懸命スケッチしていました。



この2人の子どもに、きっとこの花が語りかけてきたのでしょう。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。